
陽だまりの実

神崎 優太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

陽だまりの実

【Nコード】

N7037G

【作者名】

神崎 優太

【あらすじ】

陽だまりに憧れる悪魔、バジル。だけど、悪魔の体は陽の光にふれると溶けて消えてしまいます。そんな時、彼はある噂を耳にします。それは……。

<なんて暖かそうなんだろう……>

バジルはそう思います。

ある公園の芝生の上。木漏れ日が小さな陽だまりをつくつています。

「あの陽だまりでお昼寝ができたなら、どんなに気持ちがいいだろう……」

ふと、公園のベンチに目をやれば、そこには恋人たちや老夫婦が日差しを浴びながら、心地よさそうにお話しています。

だけど、それは無理な話。どんなに憧れてもかなうことはありません。

なぜなら、彼、バジルは悪魔だから。

日の光に触れたとたん、悪魔の体は溶けて消えてしまうのだから。黒い肌と、とがったしっぽをうらめしそうに見つめるバジル。

<もし僕が人間になれば……>

そんな思いが、ふと、頭をよぎります。

「だけど、やっぱり僕は悪魔なんだ……」

両手いっぱいにかかえた人間の魂を見つめながら、彼は公園を後にしました。

しかし、ある日、仲間たちのこんな話が耳に飛び込んできました。

「魂を食べるのを100年我慢すると、人間になれるらしい……」

その日からバジルは、人間の魂を食べるのを止めました。

グウ~~~~グウ~~~~

お腹は毎日、鳴りっぱなしです。

グウ~~~~グウ~~~~

それでも、彼は我慢し続けました。

「あいつ、人間になりたいんだってよ！ ダメな悪魔だなあ」

「人間になつたら、俺が魂を食つてやるよ!」

仲間にかかわれても、笑われても、彼は決してあきらめません。ついには、バジルを相手にする者はいなくなり、一人ぼっちになつてしまいました。

グウ~~~~グウ~~~~グウ~~~~グウ~~~~。

そして、ついに100年がたちました。

「やっと人間になれた!」

バジルは自分の体を見回しますが、これといって変わった様子はありません。

それでも彼は信じていました。100年もの間、耐え続けてきたのだから。辛くても苦しくても、一人ぼっちで我慢してきたのだから。

バジルはあの公園に向かいました。

その日は、ぽかぽかとした小春日和で、雲ひとつない青空が広がっていました。

彼は、思い切つて陽だまりに足を踏み入れます、ゆっくりと、暖かな光が体を包みこんでいきます。

「暖かい……。なんて暖かいんだろう……」

そう思つた次の瞬間、彼の体は煙のように消えてなくなつてしまいました。

地面に一粒の小さな種を残して――。

やがて、バジルが消えた陽だまりからは小さな芽が生えてきました。

何年かたち、芽は大きな木に育ち、毎年、一つだけの小さな実をつけるようになりました。

その実を割ると中からはほんの少し、だけでも、とても暖かな光があふれだします。そして、悪魔がその光に触れても、決して消えてなくなることはありませんでした。

（後書き）

ちょっと短いお話ですが、楽しんでもらえればうれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7037g/>

陽だまりの実

2011年1月27日05時42分発行